

## 旧大宮市の歴史刊行物

名 称	販売価格(円)	収録内容
大宮市史 第1巻 考古編	販売終了(市内の図書館等で利用可)	大宮市概観、大宮の自然、旧石器時代から古墳時代まで記述したもの。資料編 遺跡調査の概要
大宮市史 第2巻 古代・中世編	販売終了(市内の図書館等で利用可)	古代編は古墳時代から武士の興起まで、中世編は鎌倉幕府成立から寿能城落城までを記述したもの
大宮市史 第3巻上 近世編	4,600	天正18年(1590)から正徳末期(1716)まで 江戸時代の市域全体の歴史的流れ、村落の農民、年貢、河川改修、新田開発、交通制度の整備、鷹場の設置と大宮
大宮市史 第3巻中 近世編	4,900	享保初頭(1716)から幕末期(1868)まで、近世中期以降の概観、地方支配、生産基盤の整備、農村の変貌、中山道と大宮宿
大宮市史 第3巻下 近世地誌編	販売終了(市内の図書館等で利用可)	「新編武蔵国風土記稿」の記事のほか、調査で得た史料を加えて宿・村の位置と地形、字地、沿革、村況を記述したもの 江戸末期における80ヵ村をとりあげている(旧大宮市域)
大宮市史 第4巻 近代編	4,800	幕末から昭和20年まで 大宮県から浦和県へ、大宮市の誕生、大宮駅の発展と労働運動、氷川公園の変遷
大宮市史 第5巻 民俗文化財編	販売終了(市内の図書館等で利用可)	村の生活、生産生業、信仰と俗信、家と親族、人の一生、衣食住、年中行事、伝説、歌謡、方言、民俗芸能、美術工芸、文書典籍、考古資料、史跡、天然記念物について記載
大宮市史 資料編一	3,900	享和3年から天保5年 (氷川神社神主日記)
大宮市史 資料編二	4,200	天保6年から明治元年 (氷川神社神主日記)
大宮市史 資料編三	6,000	明治2年から明治15年 (氷川神社神主日記)
大宮市史 別巻1 補遺・年表	2,900	第1巻(考古編)・第3巻(近世編上、中、下)・第4巻(近代編)の各巻の補遺編及び年表
大宮市史 別巻2 永田荘作関係書簡集	販売終了(市内の図書館等で利用可)	明治時代、県政に貢献した永田荘作に宛てた中央・地方の政界人の書簡をまとめたもの
続大宮市史 I 現代資料編	5,200	昭和20年から昭和42年まで 現在の概観、敗戦と大宮、市政の歩みと行政機構の変遷、6ヵ村合併、産業と経済、社会と労働、教育と文化、宗教
大宮のむかしといま	500	市史の縮刷版。原始から現代(昭和55年)まで記述したもの